

# Heroldo de HEL

N-ro28

januaro, 1989

北海道エスペラント連盟

047 小樽市入船2丁目17-12

ORGANO DE

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO:

Irihune 2-17-12, Otaru, 047 Japanio

## 築き上げたものを固めて更に前進を

北海道エスペラント連盟会長 星田 淳

思いがけない事になって驚いているうちに、スタートの声で走り出してしまった感じだ。11月6日の役員会まで、こうなるとは予想できなかった。三沢前会長が辞意を表明し、他の役員と共に私を推薦した時は、「まさか……」と思ったが、前会長の「私の就任前から星田さんと話し合っていた世代交替が今実現しそうだ。バトンタッチの時期が来たと思う……」との言葉を聞くうちに、皆さんの推薦を受けるしかないな、という気持ちになって来た。こうして12月10日の臨時大会の役員改選承認、29日の役員会での当面の方針討議と、もう「走り出して」しまったのだ。

HELの目的、活動については規約にある通りで今後特に変わることはない。基本的には今迄に築き上げたものを固めて更に前進をはかって行きたい。今迄築き上げて来たもの——連盟内部の活動、即ち機関誌、大会、合宿など。機関誌は86年以来定期刊行が続き、HELの歴史の中でも最高の状態だが、今後もこれを皆の努力で維持、向上させて行こう。合宿は「毎年行なう」と一旦きめていたが、昨年は日本大会準備などのため見送ってしまった。年末の役員会では、5月に実施する

ことをきめた。

以上の機関誌、合宿、それに大会はどちらかといえばHEL内部の事だが、規約では「エスペラントの宣伝と実用……世界的な交流をはかることを目的」としている。このトップにかかげられている「宣伝」や、事業として規約にある「講習会、展覧会等の開催」など、普及活動に属することはHELの名で取組まれた事はなかった。これらは地方会がやるもの、との考えがあったからだが、道内で地方会があるのは、ほんの一部の都市に過ぎない。エスペラントは普及していかなば、その前途はないのだから、われわれもこの点を今後考えるべきだとの意見は大会でも役員会でも出された。北大で成果が上がっている通信教育の受講者募集を他の地方で行なう事が検討されている。

役員会も一応年4回程度とし、次回は2月、合宿の具体的計画などを討議することにした。

やらねばならぬこと、やりたいこと……、多くの問題を一度にはやれないが、出来るところから手がけ、HEL-anoj みんなの協力で前進して行きたい。

Antaŭdankon por via kunlaboro !

★北海道エスペラント連盟臨時大会で新役員選出  
会長に星田淳氏(苫小牧)、事務局長に切替英雄氏(小樽) 詳報2面

★北海道エスペラント連盟臨時大会報告

去る8月、札幌での日本大会の枠内で行われた第52回北海道エスペラント大会では時間不足で連盟の役員改選が行われなかったため、この件だけを議題にして12月10日、札幌の北海道クリスチャン・センターで臨時大会が開かれた。出席者は30名（札幌23名、苫小牧4名、小樽3名）。

14時15分、宮岸忠孝事務局長司会により開会、経過説明。議長に宮井康夫（札幌）を選出、まず9月に急逝した大先輩、顧問・相沢治雄を悼んで黙祷。三沢正博会長あいさつのあと役員改選の協議に入った。

選出方法について意見も出たが、結局役員会で出ている方向があれば、それによることとなり、事務局長から11月6日の役員会の討議内容を受け、次の新役員が承認された。

会 長 星田 淳 （苫小牧E会）  
事務局長 切替英雄 （小樽E協会）  
常任委員 児玉広夫 （札幌E会）  
河原一弥 （札幌E会）  
渡辺晋道 （札幌E会）

会計監査の大友鞆一、阿部映子（いずれも札幌E会）と顧問の江口音吉（小樽E協会）、木村喜壬治（札幌E会）、高橋要一（札幌E会）、新田為男（由仁）は留任。ただし顧問には副会長を退いた吉原正八郎（札幌E会）が加わる。

なお、会計の砂野裕子（札幌E会）からこの機会に辞任したいと申し出があったが、この時間内に後任をきめられなかったため、役員会で対応をきめることになった。

新旧役員あいさつのあと、15時20分閉会。

（事務局）

## 北海道連盟E合宿 5月開催を決定！

87年の第51回大会で定例とするとされたものの、昨年は実施できなかった連盟のE強化春季合宿が、今年は5月に開催されることになった。12月の役員会では、会員のE力向上のためには長時間継続の合宿方式の学習は不可欠であり、また全道に散在する会員の活動交流をはかるために、連盟の三大事業の一つとして取り組むことを確認した。

日程は5月3日～5日、三連休の3日間で、開催地は前回開催の富良野市山部を含めて適地を検討している。プログラムは文法、翻訳、会話、再入門などの講座を設け、いずれも一定水準の内容のものとし、適任講師の依頼を始めている。

最終的な実施要項は2月の役員会で決定され、本誌次号で発表される。

### 連盟事務局 小樽に移転

北海道エスペラント連盟事務局（連絡先）の所在地が、89年1月から札幌市から小樽市に移転いたしました。北海道連盟あての文書、連絡等は今後、下記あてに送付されますようお願いいたします。

〒047 小樽市入船2丁目17-12

北海道エスペラント連盟

\* \* \*

なお、機関誌 Heroldo de HEI への投稿、連絡は、下記の編集部あてに直接お送りくださるようお願いいたします。

〒004 札幌市白石区もみじ台東

1-1-6-304 カワハラ・カズヤ

## 札幌のZ祭に36名参加

今年1年とにかく忙しかった札幌エスペラント会のザメンホフ祭が12月10日(土)、北区のクリスチャンセンター・チャペルにて行なわれました。日本大会も無事終わり、大会報告書の発行は遅れているもののひとまず1年をしめくくる会になったようです。事前の打ち合わせで、あまり凝った趣向にはせず歌と図書の販売に力を入れるZ祭にしようということ準備しました。出席者31名、そして大本の青年5名の参加もあり、阿部映子さんの司会で和気藹々の家庭的雰囲気で行われました。

16:00の受付から全員で会場の設営・準備をして、一人として「お客様」でふんぞり反る人はいません。宮井康夫さんが中心となった北海道E連盟の図書販売も人気のある順からどんどん消えてゆきます。宮井さんの「帰りの荷物は少なくさせて」の思いが通じたのか……。伊藤直樹さんの「この本、前に読んだけど良かったョー」「こりゃーオモシロイヤ！」の声に、どれどれと手を伸ばす人もいたり、この日の売上げは25冊、しめて¥13,500ということでした(HELの在庫図書はひと昔以上前のものなので、単価が安く掘り出し物もあるのです)。

その間に日本大会のビデオを流しました。佐藤奈美子さんの開会宣言の映像に、ずいぶん前のことだったような懐かしいような……(たった4ヶ月前のことなのに)。

“ザメンホフについて”という題で児玉広夫さんに講演をお願いしました。もう聴き慣れたはずのエスペラント誕生の歴史も何度聴いてもあきることのない新鮮な気持ちで聴くことができます。また今回、入門・初級講座の受講者の方の参加もあり、この講演をどのように感じたか興味深いところではあります。

“世界大会に参加して”では3名が発表しました。開会式に出席し感激したこと、十分に旅を楽しみ、大会後観光もすばらしかったこと(瀬川綾子さん)、旅の楽しさ、来年のブライトン大会への参加のこと(馬場恵美子)、猛勉強して、前大会のくやしい思いを忘れるほど楽しい思いをしたこと、大会後観光での心のこもったもてなし、次期予定開催国となっているキューバ、チェコへ行きましょう(山岸悦子さん)。

食事をしながら歌い出す人、にわか講習会を始める人、次第に盛り上がりゆきます。30分後の“みんなて歌おう”は、金森美子さんのキーボード伴奏で盛り上がったムードで進み、壇上で踊り出してしまいそうな人、歌の意味を説明するうちに幼稚園の先生(失礼!)のようになる人、壇上上がったままで3曲も一人で歌いこのまま止めないのでは?と思うほどの熱唱を聴かせる人、歌に酔ったか、アルコールに酔ったか口がよくまわらなくなった人。民謡にはアイノテまで入ってしまいます。シューベルトの“Serenado”をこの日のために日々練習してきた木村喜任治さん、豊蔵正吾さん、金森さん、義村政美さんの4人が合唱してヤンヤの大喝采、まだまだ“La Espero”“La Tagiĝo”と続き、最後に“Sed ŝvelos nia esper’”(今日の日はさようなら)を全員で歌って閉会、師走の街に三々五々と散ってゆきました。

反省点をひとつ。クリスチャンセンターへのお酒の持ち込みは今回限りとしましょう。お酒の持ち込みが禁止されていることもそうですが、アルコールがなくても歌や雰囲気ですら十分に酔うことができるはずですから!

今回の当番になって、連絡、食事などを準備した阿部さん、豊蔵さん、金森さんに感謝し、また実り多き新年を迎えられることを祈ります。

(馬場恵美子)

## エスペラント・ハム (アマ無線) 免許取得から開局まで

JF8TLS 足寄町 浜田 国貞

現在、北海道には8人のエスペラント・ハム仲間がいます。JA8DAO (岩井正久、函館)、JH8NEJ (岩崎泰夫、江差町)、JF8CAI (佐々木将人、旭川)、JE8TOC (栗原靖、札幌)、JE8UJM (栗原千鶴子、XYL de JE8TOC)、JA5HTE (中川直、標茶町)、JF8UHP (小淵修子、札幌)、JF8TLS (浜田) の8人です。また、「北海道エスペラント・ハム・クラブ」はJH8ZCLで、常置場所はJA8DAOです。私は昨年11月に開局したばかりですが、初心者の方の立場で経験したことが、皆様の開局のお役に立てば幸いと思い、免許取得から開局までを書き記します。

### 1. 免許取得まで

4年前、札幌の中学生の甥が電話級アマチュア無線技士試験に合格したというので、私も受けてみようと思い、ポケット判『完全丸暗記 初級アマチュア無線予想問題集』(誠光堂新光社)を買ひ、同時に「電話級アマチュア無線技士国試申請書類」(120円)をJARL(日本アマチュア無線連盟)本部から取り寄せ申請した(手数料2,300円 写真、都市部ではアマチュア無線機器販売店で売っている)。

2か月ほどときどき勉強し、マーク・シート方式なので分からないものは答えを暗記した。そうして、85年12月の国家試験を札幌で受験し合格した。私は受けていませんが、アマチュア無線技士養成課程講習会があり、札幌、旭川、室蘭、苫小牧、帯広等で10日間ほどの日程でときどき開催され、だれでも受講でき、受講料は19,000円です。

### 2. 免許証の申請

「無線従事者免許・再交付・訂正申請書」(150円)を申請して(手数料1,000円+写真、6か月以内)、85年12月13日付けで「無線従事者免許証」(電話級アマチュア無線技士)が送付されてきた。

### 3. 無線局免許状の申請

昨年8月の日本E大会でEKAROJ (Esperantista

Klubo de Amatora Radio en Japanio)が臨時無線局を開局していたので、JA1FXZ(田中良克さん)らに開局について相談したところ、リグ(aparato)を格安で入手できる(=20%rabato)ことなどの情報を得て、開局申請を決意した。

ところが開局用紙がハム・ショップにあるのを知らず、ハム・ショップも知らずで、書店に注文し1か月ほどかかって入手、その後申請し、開局は11月となった。

申請は「アマチュア局個人用開局用紙(10w以下の保障認定用)」(JARL発行)600円+申請手数料6,000円+JARL保障認定料3,000円+標章交付料300円/台×2台分(将来ハンディー機を持つことを見込んで)+写真で行い、10月末にコールサイン(voksigno; identa signo) JF8TLSが与えられた。

### 4. 開局

EKAROJに依頼してあったリグが宅急便で届けられた。中身は、

- (1) YAESU の HF (短波) 用トランシーバー FT-747SX 89,800円
  - (2) ハンド型スキヤニングマイク MH-1B8 3,800円
  - (3) 10w 用スピーカー付き電源 14,800円
- 計 108,400円 - rabato

JA1FXZや同僚にアンテナの種類を相談し、結局HF帯用2バンドダイポールアンテナ(7,21MHz)と接続ケーブル20m、80cmの銅のアース棒2本、M型コネクター2つ、碍子等を帯広まで行って(65km×2)買ってきて(1,000円余り)、88年11月4日、子どもを助手にして逆V型に屋根の上にアンテナを張った。

### 5. QSLカード(交信証)づくり

エスペラント書きで作ろうと思い、JA1FXZの協力で完成。形式が年→月→日の順になったことなどを教えていただいた。

## 6. JARL加入

QSLカードをはがきで個人に送ると大変なので、転送機関のJARLへ加入した。

社団法人 日本アマチュア無線連盟  
〒170 東京都豊島区巣鴨1-14-2  
入会金 500円、会費 年額 4,800円  
国試テレホンサービス (北海道)  
011-271-0721

1989年 1月11日までに 190人の人と交信している。韓国学生の勉強への意欲と日本に対する関心の強さには感心するものがある。韓国の人と交わすカタコト英語、日本語での交信とは違い、Eでの s-ro KO (洪) との交信は、隔てなく同時に“われーわれ”が地球に住んでいることを感じた交信だった。

短距離用のリグでなく長距離用のリグを勧めていただいたことに感謝している。短距離用は井戸端会議(?)という感じが強く、HF帯の長距離では、ゆっくりと自分の好みに合った相手を見つけ切磋琢磨できる可能性が残されているから。

今年は太陽活動が活発で、太陽黒点増減の11年周期の減少期にあり、電離層の電子密度が高まり短波の電波が遠くまで届く好機です。

世界のハム局数も 180万局ほどあり、日本には 82万 5千局 (160 万人) あり、世界で使われているリグの大半は日本製で、“AKIHABARA”の名は世界中に知れわたっているそうです。自分に挑戦してみたいかがでしょうか。相沢治雄さんはご高齢でワープロに挑戦なさいました。

(1988. 1. 12)

北海道Eハム・クラブは昨年末に設立されました。なお、浜田氏の原稿中の「交信日記」は紙面の都合で割愛しました。(編集部)

各地方会、専門グループの活動状況はもちろん、個人の文通、交信、旅行、読書などの近況を編集部にお寄せください。

## 北大で通信講座に反響 小樽では4月から

小樽 切替 英雄

小樽エスペラント協会では、エスペラント通信教育センター(〒236 横浜市港南区最戸一丁目18-14)が出している『国際共通語 通信講座 folia kurso エスペラント語』を用いてエスペラント普及活動を行なう計画である。

昨年、前田米美氏(和歌山エス会)よりいただいた寄附金と、故・山賀勇氏の御葬儀のおり、高橋達治氏よりいただいた寄附金を基礎に教材を購入し、まず試しに山賀氏の手控えにあった、かつて山賀氏がエスペラントを教えられた方々8名に第1回分を送り反応を待ったが、ゼロであった。

次に、北大文学部と教養部に、辞書とJ E Iの連絡先を紹介した次のようなビラを添えて、計60部置いて自由に取ってもらえるようにしたところ、4名の方から反応があった。

エスペラントに関心のある方は同教材をご覧下さい。この通信教育は無料で受講できます。ただ、通信費は各自がご負担下さい。

その後、第4回まで続いている方は1名。その方はJ E Iにも連絡をとり、また、私宛てにエスペラントで手紙を書いてきた。

私は今、絶望的なくらいいそがしいので本格的に小樽市民を対象とした通信教育を始めるのは4月からになると思う。なお、この通信教育は、第1回目だけはビラのようにして広く配布し、そこにある問題に解答くださった方に、第2回目以降の教材を送るというもの。全部で10回までである。上記の通信教育センターにお願いすれば、教材見本を購入することができる。

### La Movado を読もう

西日本4E連盟の共同機関誌。11月号に小西岳訳 Donaca Salut' (贈る言葉) 12月号に星田淳「S-ro相沢治雄と北海道E運動」。月刊 年額 3200円。

振替 大阪 6-60436 関西エス連盟



## 初めてのザメンホフ祭

札幌 堀 由美子

エスペラント入門講座を受講してまた数回、すべてが物珍しく好奇心の強い私は、このザメンホフ祭がどういうものか由来すら判らなく胸をワクワクさせ席についたしだいです。

いよいよ始まり、最初にフィルムを見ましたが、札幌のエスペランティストの1年の活動だったのですが、さっぱり判らないまま時間が過ぎ、次の児玉広夫さんのザメンホフの話については大変興味をそそぎ、この国がいかに大変だったか、言葉を通して民族の争いがないように平和を願うという苦しみの中から生まれたこのエスペラントに長い歴史的なものを感じました。それから100年。日本人は外国へ自由に行ける世の中になって来、文化面、経済面と、交流を多く出来たら良いと思います。

ところで、私の席はとても楽しい雰囲気、すっかりとけこみ、最後に歌を歌って久しぶりに大きな声を出したものですから学生気分になり、純粋な気分で歌えました。この日は雪が降り、白い世界にひたって、ふと友達にでもエスペラントを推めたい気持ちで家路に着きました。

まだまだ初歩の私は、単語一つ覚えるのも時間がかかるしだいです。のんびりしていきたいと思っています。

\*堀さんは札幌エス会の88年秋季入門講座の熱心な受講者で、札幌のZ祭初参加の印象を寄せていただきました。(編集部)

★札幌エス会から会員のみなさんへ  
89年(01~12月)の会費を受付けています。年額2400円(賛助会員6000円)です。  
振替 小樽 8-6864 阿部映子 (SES 会計)

## 札幌雪まつりに雪像を

札幌雪まつりの原点、市民の広場にエスペラント・グループが参加、雪像を展示する。製作にあたるのは札幌E会雪像製作グループ(代表・阿部映子、宮井康夫)で、同グループの雪まつり参加は87年に次いで二度目。前回の作品「緑の星を抱くパンダ」は、UEAのesperanto(87, julio-aŭgusto)の表紙でも紹介された。

今回の参加も高倍率の抽選に挑み、前回同様、繰り上がり当選の強運で難関を突破した。テーマは「北海の緑の星」で、氷山の上に星を持つアザラシが立つという像にするという。製作期間は1月31日から2月4日、雪まつりは2月6日から12日までで、場所は大通り11丁目。作業は主に夜間になるので、製作参加者は完全装備が必要。

## 札幌E会新役員選出へ

札幌E会は1月21日(土)、北区のクリスチャン・センターで総会を開き、会長30年、昨年の日本大会成功を花道に勇退する吉原正八郎会長の後任人事を討議する。総会のあとは同所で新年会。

同会はこの総会を機会に会員の入会、再登録を往復ハガキで確認している。札幌周辺都市在住者はこれまでも札幌E会に加入していたが、今回の再登録にあたって、「札幌以外の方の参加も大歓迎」とよびかけている。

## 北海道にEハムクラブ

日本大会後、「エスペラントの世界」誌上で北海道のEハム関係者の活発な動きが伝えられていたが、昨年12月末、岩井正久氏(函館、JA8DA0)から編集部に入った連絡によると、このほど北海道Eハムクラブ(JH8ZCL)が設立された。

メンバーは岩井氏のほか浜田国貞氏(足寄)、小淵修子さん(札幌)らで、開局まもない浜田、小淵両氏も国内外と交信を開始している。

## 中国東北地方のエスペラント運動 (3)

札幌 三澤正博

### 中国通信交通事情

しばらく前まで、中国への封書は10gまで 110円だった。それが今年(1988年)になって80円に値下がりした。われわれは、国内へ出すのと殆ど同じ気分で中国へ手紙を出す。仮に80円が110円だとしても、バス一区间も乗れない。電話もそうだが、郵便代は非常に安くなった。しかし、中国への友好の手紙をどしどし出している人でも、次のことを考えたことがあるだろうか。110円だったころ、中国から来る封書には、1.1元の切手が貼ってあった。しかし、80円になった今、それは1.6元に値上がりしているのである。中国人にとって、1.6元とはどれほどの値段なのだろうか。よく引合いに出される例だが、大学教授の平均月給が100元なのである。彼らが日本のわれわれに友好の手紙を一通出した時、その切手代は月給の1.6倍ということになる。

これを読んでいるあなたの月給の1.6倍はいくらか計算してみたい。20万円だったとしよう。一通の切手代が3,200円の友好の手紙をどしどし出せるか。日本人にとっては、日中友好の手紙を出すことは、文字通りジュース一杯の安さで、その故にわれわれは、しごく気軽に友好を口にする。だが、中国人にとっては同じ友好の実践がずっと生活にかかる重みのあるものなのである。このことを充分に知ることなしに、民族の平等や友好を口先だけで叫んでいるのだとしたら、お人好しいところである。エスペランチストは、世界の平和と民族の友好平等という問題には極めて敏感な人種である筈である。しかし、それが却って自らを暗示にかけ、言語の中立共有の観念が、社会の現実を厳しく見つめる眼を自ら曇らせてい

るとすれば、これほど奇妙な矛盾はあるまい。以下の旅日誌は、私自身の自己批判の記録でもある。

今回の中国ゆきは3回目だが、前回、前々回は違って個人旅行だった。中国国際旅行社を通してのグループ旅行の経験とはかなり違うものになるだろうと思っていた。それは期待でもあり不安でもあった。だが個人旅行とはいっても、瀋陽市政府の招待状をいただき、前述したように趙承華氏が全行程付き添ってくれる約束なのだから心配はない。手紙の往復で約束したとおり、趙氏が大連空港に待っていてくれて、トランクを軽々と運んでくれて、大連では有名な南山ホテルに到着した時には、すべての不安が吹きとんで、これからのエスペラント旅行の期待だけがふくらんだ。東京を飛び立った日は肌寒い小雨だったが、一夜明けた6月13日の大連郊外の朝は、さわやかに温暖、期待はいっそう大きくなった。

だが、この朝になって趙氏が妙なことを言いだした。大連筋に頼んであったのだが、大連・瀋陽間の列車の切符がとれていないというのである。そして、「自分は記者証を持っているから、あなたは自分の助手ということになってくれ」、つまり、あなたは中国人になる、日本語は喋ってはいけない、というのである。今さら何をいわれても趙氏のいうことに従わざるを得ない。だが、大連駅前にトランクと二人で暫く待たされるうちに、彼は「とれた、とれた」と切符を手に笑いながら走り寄ってきて、ホームへ歩いた。長い列車の所々の入口に立っている女車掌をつかまえて、彼はさかんにやりあっているが、相手は知らん顔している。私にはどうなっているのか分からない。ただ、はっきりしていることは、以前の団体旅行の時のように、外国人のための軟座車の座席が予約

されていないということであった。そのうち、発車寸前になり、彼は強引に、ある車輛の入口から私とトランクを押しこんだ。座席も通路も立錐の余地もない超満員列車である。こうして、私は初めて中国人民と一緒に超満員の硬座車に乗り、暑い中、6時間の旅をすることになったのである。

思い返すと、これは良い思い出になったし、大切な教訓となった。実は、私自身、数回の列車による中国旅行を楽しみながら、中国人民が敗戦直後の日本のような満員列車で旅しているのに、日本人観光客団体が軟座車のソファで昼間から酒を飲みながら旅していることに後ろめたい気持を禁じえなかった。だから、文句や不満をいうことはできなかった。

趙氏が「切符がとれた」といって喜んで、つまり、趙記者とその助手という芝居を打たずに旅客として乗れたことは幸運だったのだが、その「とれた」切符は、座席指定切符ではなく、立席切符だった。立ったまま6時間というわけだ。敗戦直後、私は何度もこういう旅をしているから、全く知らぬ事態ではない。しかし、其後は絶えて久しく経験せず、高血圧症を持つ57歳の身体にはこたえた。私をトランクに坐らせておいて、趙氏は列車が止まる度にキョロキョロとし、長い列車を前後に歩いて、下車した客の残した空席を私のために確保して坐らせてくれた。しかし、そのために、一番間近にいた一人の中国人民は趙氏に説き伏せられて、私のために立ち続けた。こんなことが三度くらいあった。彼はこのために、自分の所持している瀋陽市人民政府幹部証と私が「外賓」であることを武器に使っていた。

「賓」という語は「賓客」に通じる。中国では外国人旅客をこのように呼ぶ。それは中国の長い歴史のもたらしたものだろうが、人民中国にあっても、多数の人民が駅前の野天広場でゴロ寝して列車待ちしているというのに、「外賓」はゆった

りしたソファのある「外賓候車室」(待合室)で待たされ、全く別の通路を通して軟座車に導かれる旅行の二重構造には、初めての時、ひどく驚かされたものである。今回は、人民と共に硬座車に乗る「光栄」を得たわけだが、結局、「外賓」の権威と人民政府幹部の「権力」とによって、私は一人の中国人民を押しつけて、座席に坐ることになったのであった。それはそれとして、私は隣あった老農夫婦や、はるばる広州から来たという若い石油技師と、カタコトの中国語会話を楽しむことができた。趙氏とは、おそらく誰れも理解できないだろうエスペラントをいいことに、満員列車の騒音の中で、はばかりことなく金のやりとりのことを話した。

「先生は、いくら金を持ってきたか」「20万円だ。その他、君の来日のために同志から募った10万円を持って来た。これは君に提供する」。彼は喜びをかくさない。「私の滞在日数17日間にたいして、いくら払えばいいのか」「最初、10日間で5万円余りとお知らせしたが、先生が17日間というので上司と相談した。10万円、私にくれ。足りない分は人民政府が出す」というようなやりとりをした。

今回の私の中国旅行の目的は、エスペラント交流だけではなかった。前述したように、ハルビン・エスペラント会との交流がきっかけとなって、ハルビン師範大学との姉妹校提携の話が進捗し、加えて瀋陽師範学院とのそれも煮詰まっていた。私には大学間姉妹提携の最後の詰めの仕事があった。だから、私は経費の点ばかりでなく、大学内の宿舎に泊まりたい、と希望を書き送ってあった。ホテル泊まりならば、だいたい相場がわかるが、大学の宿舎に泊まり食事をするとすると、いったいどのくらいの費用が要するのか、全然検討がつかなかった。趙氏が「10万円、私にくれ。足りない分は人民政府が出す」という言葉に頼るほかなか



った。10万円を手渡して、いわば財布を握られ、外貨交換の機会もなく、自分から現金を出すことは殆んどなかった。10万円では「足りる筈がない」と彼はいい続けたが、実際、足りたのか足りなかったのか、どのくらい足りなかったのか、あるいはひょっとして彼が儲けたのか、そこの所は、決算書を貰ったわけでないので、今もって一切分からない。

瀋陽駅に出迎えてくれたのは、瀋陽師範学院外事係の張徳祥先生と沈国権先生だった。市人民政府と遼寧大学の外事関係の方もいたように思うが、よく記憶していない。張先生とは既知の仲で、日本語も達者なので、「硬座車で来たんですか」と驚きをかくさず、「疲れたでしょう。師範学院には宿舎がないので、遼寧大学の方に泊まっています」など話すうちに、クルマで遼寧大学外国人講師宿舎のバス・トイレ附シングルの部屋におちついた。趙氏自身もこの宿舎（外樓という）の一室をとって泊まりこんだ。「先生の世話があるので」といった。隣合った食堂では、メニューの注文をしてくれて、殆んど毎回向い合って数品の中国料理を食べた。金はその都度、彼が支払った。食住は、歓迎宴の他は、たいていこのような形式で保障されて全く心配はなかったが、反面、行動の自由もなかった。中国の大規模な大学には、たいてい外事専門の係がいて、英語、日本語のできる人が必ずいる。私は独りにされても不自由なかった筈なのだが、趙氏は少し離れた所で、いつも私のそばにいた。「奥さんのために夜は自宅に帰りなさい」と私は言ったものだが、少なくとも、私が眠るまで朝食時には必ず宿舎にいた。

不思議なことがいくつかあった。彼の職場である人民政府外事弁公室を離れて、殆んど完全に私に附添っている。2日や3日ではない。17日間である。よほどの賓客でもない限り、日本では考えられまい。さらに、私がここに滞在していること

を知って、個人的に訪ねてくる人もいたし、私が訪ねたい個人もあったが、趙氏は私の個人プレイを許さなかったし、ある若いエスペランチストが私を訪ねてきた時などは、あしざまに追い返した。治安上の理由、公安上の理由、私はいろいろ考えてもみたが、善意に解釈することにした。趙氏がいつもそばにいたので、会話はエスペラントだった。私を訪ねてくるエスペランチストもいたから、遼寧大学の外樓にエスペラント会話が連日鳴り続けたわけで、こんなことは前代未聞だったろうし、その意味では、小なりとはいえ「歴史的イベント」になったことだろう。趙氏は私の旅のために、連日電話をかけては走り廻っていた。

6月20日、夜行でハルビンに向う夜、偶然、駅で趙氏の二組の妹夫婦と出会った。午後10時過ぎの瀋陽駅前広場は、三々五々地べたに坐りこんだり寝ころんだりしている列車待ちの人民で一杯だった。私たちをのせたクルマが、その人民を右に左によけながら駅舎に近づく。例によって、外賓である私は人民とは別の入口から広々した待合室に入り、ソファに深々と坐った。趙氏はもちろんだが、二組の夫婦も私を見送るとの理由だろうか、待合室で一緒に閑談することになった。そのうちの二組は、親戚訪問とかで同じ207列車でハルビンに向うという。時間が来て、列車に乗るべくホームに出たが、妹夫婦はいつの間にかいなかった。

私と趙氏は、軟臥車（一等寝台）に乗り、備えつけのお茶を飲み、すぐ横になった。長い長い列車の殆んど車輛は、超満員の硬座車で、発車までの僅かな時間、乗りこむ人々の叫び声がホームを圧した。それは、私が大連で経験し、ハルビンでも目撃した喧騒と危険で、窓から出入りする者、はぐれた仲間を探すうろたえた眼の人、ベルもなく無慈悲に発車する車輛のデッキにとび乗ってぶらさがる人――軟かいベッドに横になった後も、

もはそれらの光景が眼底に焼きついていてなかなか寝つかなかった。日本敗戦直後の数年間、死にも狂って超満員の列車に乗りこんだ少年時代の経験がよみ返ってきた。その当時、悠々と特別列車に乗って旅しているアメリカ占領軍の軍人や家裏を見て、政府が宣伝する日米友好の言葉とは裏腹に、少年の私の心の中にはむくむくと反米感情が湧き上がったものである。

次に、瀋陽とハルビンの間は 547km、だいたい東京と大阪あるいは上野と盛岡の間の距離である。寝台列車は10時間で走る。その値段だが、中国人と外国人とでは同じではない。この時のおよそのレートは 1元=35円だったが、これで換算すると次のようになる。

私の切符の値段		趙氏の切符の値段	
乗車券	1,092 円	乗車券	542.5 円
特急券	126 円	特急券	63.0 円
寝台券	1,288 円	寝台券	640.5 円
手数料	35 円		
合計 約 2,500 円		合計 約 1,246 円	

二人分で 3,800円程度、往復しても 7,600円ということになる。このように日本円に換算するとずいぶん安く感じられるが、中国円で、私の場合 71.6元、趙氏の分35.6元。前述のように大学教授の平均月給（日給ではない、念のため）は 100元である。30年前のわれわれもそうであったが、現在、中国人民が特急寝台列車に乗って旅することは容易なことではない。

今回の旅の一つの大きな目的は、ハルビンから更に奥へ、長谷川テルの墓地を訪ねることだった。正確には知らないでいたが、その場所へは瀋陽からハルビンまでの距離ほどもさらにあるようだった。たいていの海外団体旅行の場合、かなり正確

な日程表が事前に旅行社の手で作られて、参加者に配布される。個人旅行でも西欧なら日本と同じように旅程を計画し、切符を予約購入しておける。今回は、だいたいの希望を述べて、詳細はすべて趙氏にまかしたのだが、まかした以上は、彼がすべての旅程について予約してくれるものと思っていた。彼は外事弁公室の幹部であるし、以前旅遊局にも勤めた人であるから、当然、外賓のための特別座席を予約してくれてあるものと思っていた。だが、それは誤算であった。ハルビンへ出発する時、私は当然のように、ハルビン→ジャムス→ハルビン→瀋陽→錦州→北京の日程と宿泊について趙氏に聞いたのだが、「先のことはまだ分らない」といわれるばかりであった。私はだんだんと不安になった。

(次号完結)

#### ABONU "EL POPOLA ĈINIO" !

Nun komenciĝas abonvarba kampanjo 1989 por "El Popola Ĉinio". EPC kun interesaj artikoloj kaj belaj bildoj raportas pri Ĉinio en diversaj flankoj kaj E-movado en kaj ekster Ĉinio. Tiu, kiu abonas aŭ re-abonas nian gazeton en 1a kampanjo (de 1988.10.01 ĝis 1989.02.28), ricevos unu koloran kalendaron 1989 en Esperanto. (el EPC, dec. 1988)

毎月中国から直送の全文E雑誌。本文68頁の他カラーグラビア多数。

購読料 1年 3000 円、2年 5400 円、3年 7500 円。住所・氏名は漢字とローマ字で明記して、下記の取次ぎ先へ。

郵便振替 小樽 1-34034 北島 瞳

## エスペラント訳された俳句（1）

木村喜壬治

短歌、俳句はわが国庶民文学の代表作ですが、国の経済力の増大に伴い、欧米において愛好者が急増している、と聴いています。わが国のエス界においても10数年前にエス訳本が発刊されています。われわれHEL-anojも少し勉強しておきたいと思い、しばらくの間、紹介することにしました。短歌も俳句も5,7,5,7,7、5,7,5と韻がそろっています。

Hajka Antologio からエス訳を借用し、原句を添えました。

松尾芭蕉 1644-1694

1. Jen akvo plaŭdis,  
laget' malnova plonĝon  
de ran' ekaŭdis.
2. Ho, lun' lumŝuta!  
Lageton mi rondiris  
tra l' nokto tuta.
3. Sopir-alkroĉo  
al gepatroj pli kreskas -  
fazana voĉo.
4. Interesaĵo  
komence, sed tuj morna -  
kormoranĉaso.
5. Cikado trilas  
nun rokon penetrante -  
natur' trankvilas.
6. Kuras sagpela  
Mogami-flu' en majo  
kun akvo ŝvela.

7. Trans mar' ondboja  
ĝis Sado kuŝas ponte  
brilad' laktvoja.
8. En nokt' sekrete  
insekt' kaŝtanon boras  
sub lun' kviete.
9. Vojaĝ' ĝisnuna  
sen mort' survoja-falas  
krepusk' aŭtuna.
10. Kukolo kriu  
por ke mi splena plie  
melankoliu!
11. Sur voj' despera  
krom mi neniu paŝas -  
Aŭtun' vespera.
12. Sur voj' vojaĝa  
mi morbas, kuras sonĝo  
tra kamp' sovaĝa.

1. 古池や蛙とびこむ水の音
2. 名月や池をめぐりて夜もすがら
3. ちゝはゝのしきりに恋し雉子の声
4. おもしろうてやがてかなしき鶴舟かな
5. 静かさや巖にしみ入る蟬の声
6. 五月雨をあつめて早し最上川
7. 荒海や佐渡に横たふ天の川
8. 夜はひそかに虫は月下の栗を穿つ
9. 死にもせぬ旅寝の果よ秋の暮
10. うき我を淋しがらせよ閑古鳥
11. この道や行く人なしに秋の暮
12. 旅に病みて夢は枯野をかけめぐる

## 読書ノートから

須藤 昭三

Freeman W. Crofts 著 “MORTO DE TRAJNO”

最近—— エスペラントの読物が面白くて仕方がない。動機は札幌での日本大会である。大会にあまり熱心に参加する方で私はないが、北海道に住んで札幌で開かれる日本大会へ参加しないでは流石に気が引けるし、何とかエスペラントの力をつけたいと、今でさえ考えている自分の意思が矢張り思っているだけなのか、と自分にウンザリすることになる。8月の日本大会へ向けて4月の中旬からノルマを決めて（計画を立てて）読むことにした。記録を見ると16日開始になっているが、1日6頁でその消費時間は3時間から3時間半、声を出して読むこと。

最初の本は、MORTO DE TRAJNO。この本はイギリス発行であるが、買ったのは1965年8月（ご存知ですか、東京での世界大会）だから私は書きたくないのである。自分の不勉強と怠惰がすぐ暴露されるから（20頁でやめ10頁で放り出してあるのが殆んど私の読み方だった）。東京での世界大会の帰り、連絡船でいい気になってこの本を読んでいたら（眺めていたら）隣の紳士がそれを見て、貴方はお医者さんですか、と話しかけてきたのを今でも忘れない、然し私の答えは忘れてしまった。256頁を15回で読了。

どうも私は国鉄で働いていたが鉄道用語が

わからない（この本は列車の転覆を計るスパイの追跡がテーマ）。時は大二次大戦エジプト戦線でドイツのロンメル将軍と戦って苦戦する味方イギリス軍へ1日も早くバルブ（飛行機の部品らしい）を輸送しようとするがなかなか成功しない、最終手段として国内のバルブ全部を集め（これで国内のバルブなし、まさに背水の陣）輸送する極秘計画。然しこの計画が漏れている……、英国警察スコットランドヤードの活躍となる。

著者 Freeman Wills Crofts は巻頭で次のように言っている。“私の映像への二つの光景”として、①現代の国際会議で討論される問題の障害は手段なしに誰も理解出来ない複雑さである、そこではすべての言葉は翻訳また他国語への翻訳で大変な長時間となる。②私自身出席した国際会議、アントワープ、ベルン、バルセロナ、そして他の国々、そこでは30ヶ国以上の代表が同じ言葉で話し、理解されていた、その言葉がエスペラントであった、私はエスペラントこそ国際間の相互理解の完全な解決であると確信した、とある。

訳者によればこの作家は彼の探偵小説の故に、もう国際的な名声を受けてよいという、イギリスでは最も大衆的に愛される一人であるとしているし、もう大分前からエスペランチストであると言う。

エスペラントの読物を読み始めると厚手の本でしかも価格の安いものがほしくなる。計画を立てて確実に実行しないと、2日も穴があくと駄目、計画倒れになる。今更言うのも奇妙だが、札幌大会が動機で読み出した本が10冊程になるが、ますます面白くなってきた。

（室蘭エスペラント会）

# Marista Klubo en Tomakomai

## Acuŝi HOŜIDA (Tomakomai)

Lastatempe mi trovis interesan lokon, kie mi ĉiam trovas alilandanojn por paroli kaj kanti kune. En Tomakomai estas marista klubo (angle "seamen's club"), kiun vizitas alilandaj maristoj. Tie parolata estas bedaŭrinde ne Esperanto, sed ĉefe la angla, la japana, la rusa, k.a. Iu filipino diris, "Ankaŭ Aquino estas milionulo, ne vera amiko de popolo". Korea aĝulo, "havas esperon, ke la lando (Suda Koreio) demokratiĝos sub nuna Prezidento NO Te-u". Kun rusoj, ukrainoj ni kantis "Katjuŝa", "Apud-Moskva Vespero" k.a.

De juna indonezia maristo mi aŭdis iom pri sia nacia himno "INDONESIA RAJA" (Indonezio glora?). Ĝi havas imponan melodion.

### INDONESIA RAJA

- |  |   |                                    |   |
|--|---|------------------------------------|---|
| *Indonesia tanah air ku<br><u>tero akvo mia</u>          | Tanah tumpah darah-ku.<br><u>versi sango mia</u>            |                                    |   |
| *Disana lah aku berdiri<br><u>tie mi stari</u>           | Djadi pandu Ibu----ku.<br><u>gvidi protekti patrino mia</u> |                                    |   |
| *Indonesia kebangsa-anku<br><u>nacieco mia</u>           | Bangsa dan tanah airku<br><u>nacio</u>                      |                                    |   |
| *Marilah kita berseru<br><u>lasu nin voki</u>            | Indonesia bersatu.<br><u>unuiĝu</u>                         |                                    |   |
| *Hiduplah tanahku<br><u>longe-vivu</u>                   | Hiduplah negri-ku<br><u>lando mia</u>                       | Bangsaku Rakjatku<br><u>popolo</u> | semwanja<br><u>ĉiuj-kune</u>              |
| *Bangunlah djiwa-nja<br><u>leviĝu animo-ŝia</u>          | Bangunlah badan-nja<br><u>korpo</u>                         | Untuk<br><u>por</u>                | Indonesia Raja.<br><u>granda(gloro-a)</u> |
| *Indonesia Raja merdeka, merdeka.<br><u>sendependeco</u> | Tanahku, Neguriku<br><u>kiun mi amas</u>                    |                                    |   |
| *Indonasia Raja merdeka, merdeka.                        | Hiduplah Indonesia Raja.                                    |                                    |   |

(linioj kun \*rimarkoj estas originalaj en la indonezia.  
substrekitaj estas laŭvortaj tradukoj)

La anglalingva prononco de aziaj maristoj tute ne similas al angla aŭ usona prononco, sed pli al la esperanta. Ili prononcas la anglajn vortojn laŭ la prononco de sia nacia lingvo, do ordinaraĵ anglalingvanoj komprenas malfacile. Mi intencas meti esp-ajn lernolibretojn tie. Almenaŭ kelkaj sovetianoj sciis pri Esperanto.



気分の切り換えでリフレッシュ

札幌 馬場恵美子

いつまでたっても覚えられない文法、ちっとも増えない単語、どんなにやめた方が良いと言われても単語ひとつにとらわれてしまう会話。本の購入の第一条件は厚さ5mm以下、絵はたくさんでなるべく一文字一文字がくっきり大きいこと。そしてその本さえも“積ん読図書”におちいり、私の部屋にあふれかえっている。かくして私の給料の大部分がこの趣味のために消えてゆく……。

勉強はまずしない。手を清めてから使っている訳ではないのに買ったてのように真新しい辞書。週一度の勉強会はずらい。不勉強の私には、時に拷問のように時間が過ぎるのを待つだけのことさえある。頭の中は真白、目の前にある文字を追いついて聞こえること全てを漏らさずつかまえる。ひとつのカギの単語がもとで今までわからなかったことがパッと理解できるようになると思わず“ニヤッ”「何とかついていけそう!」。しかしあいかわらず歩みはのろいままで。

さて、私のもう一つの趣味に華道があります。華道? お嫁入り修行のあの、お華のことです。これがまたなかなかハードです。花の名前がなかなか覚えられず、最近の輸入物のカタカナモノはほとんどお手上げです。また剣山を使わないお正花は、3時間、4時間はザラです。何時間もかかって生けて、止め木がはずれて全部がパーになる時もあります。仕事帰り空腹のままでの作業は足のしびれも手伝ってクラクラするほどです。そんな時には疲れも手伝って必要な枝を落したり、花の生きが下がりぐったりしたり。

それでも10年以上続いたのはどうしてでしょう? 良い先生に恵まれたのはもちろんですが、活けている間の考えている時間がとても好きなのです。

頭の中が真白、目の前にあるものだけに神経を集中させてゆく。どう使ったら一番美しい向きか、置く場所に合わせて雰囲気はどう作り出してゆくか、花器とのバランスもあります。そして私らしさをどう出すか、花の包みをほどく時のワクワクする気持ちはいくつになっても新入学の教材を受けとる時のようです。そして出来上がった作品は数日間家族を楽しませてくれます。

仕事の中でのイヤなこと腹が立つこと、自分になさけなかったこと、そんなこと全部が“頭の中が真白”になると消えてしまうのです。そして数時間後、気持ちも新たに“またガンバルゾー”となるのです。外で働いていると、仕事、環境、時代に柔軟についてゆかなければなりません。フテクサクレテ、ソナノイヤー、では誰もゴキゲンをとってはくれないのです。

“気持ちをいつも新しくしてゆく”。このことが難問にぶつかった時の解答になることが多いようです。いつまでたっても上達せず、“下手の横好き”と言われながらも私からエスペラントを捨てさせないのは、一枚の葉書であったり、旅先のSaluton!の一言であったり、ザメンホフ祭の歌声であるのです。

さて、最近とどいた PONTETO (関東E連盟機関誌) 1月号を見ると、第74回世界E大会参加ツアーの案内がでています。英国ブライトンで開催される世界大会に参加後、豪華客船とバスで北欧をゆくというツアーで、費用は約56万円とあります。あと7ヶ月のうちにこの代金を貯めることが出来るかどうか、それとも英国だけの参加でガマンするか……。1年間の給料は今年もまた、やはりエスペラントの贅沢に消えてゆきそうです。

連盟役員会報告

新役員による第1回役員会が12月29日18時より札幌駅近くの喫茶店で行

われました。役員全員(星田、児玉、カワハラ、渡辺、切替)が出席しました。以下、内容を簡単に記します。

1. 連盟住所を切替宅にする。
2. 会計事務は切替が行う。
3. 機関誌編集責任はカワハラが負う。編集部をカワハラ宅に置く。
4. 連盟の会計年度を 9月 1日より翌年の 8月31日までとする。
5. 1989年 1月と 3月の2回、機関誌の発行・発送に合わせて、今年度(1988年 9月 1日~1989年 8月31日)会費未納者に請求書を送る。本年 5月の機関誌発行・発送日までに未納の者には機関誌の発送をとりやめる。
6. 会員の住所録は1989年 5月以降に発行する。
7. 役員会は年に4回程度行う。役員会が行われて1ヶ月以内に機関誌発行が予定されないときは、事務局だよりを発行し、顧問と札幌エス会、函館、室蘭、足寄、網走の会員(各地1名)に発送する(連絡を円滑にするため)。
8. エスペラント学習のための合宿を 5月3,4,5日、富良野市山部で行う予定。5,6名の方に講師を依頼し、コメントメントからベテラーノまで思う存分勉強できる合宿にしたい。
9. 連盟が購読してきた PONTETO(関東エスペラント連盟)、La Movado(関西エスペラント連盟)、『エスペラントの世界』(エスペラント通信社)の購読を今後も継続する。La Tamtamo(横浜エス会)、Vojo Senlima(熊本エス会)、MejloStono(仙台エス会)、Verda Monteto(和歌山緑丘会)、『センター通信』(名古屋エスペラントセンター)との機関誌の交換を今後も継続する。福岡エス会との機関誌の交換を新たに始める。峰芳隆氏、アリマ・ヨシハル氏、高橋達治氏に機関誌を寄贈する。

(切替英雄)

新役員紹介

臨時大会で選出された会長、事務局長、常任委員の自己紹介です。

星田 淳(ほしだ・あつし)

〔経歴〕

1931.03.22 札幌で出生。中国(旧満州とチチハル)―いずれも現在の河北省)で育つ。

47年頃、熊本でEsp.学習を始めた。

48年頃、J E I 加入。48~53年の間、熊本・五高・九大・九州Esp.連盟等の会員。

53年より北海道Esp.連盟に加入。

60年、苫小牧Esp.会創立。

Ainaj Jukaroj 第1版(79年)、第2版(88年)にかかわる。

〔抱負〕

生来の(?)不精、ズボラを反省し、やるべきことをキチンとやるように努力します。シッタゲキレイして下さい。

切替英雄(きりかえ・ひでお)

1954年、札幌に生れ、遠軽(紋別郡)、千葉で育つ。妻と二児あり。北大文学部助手。アイヌ語を研究する。エスペラント歴4年。小樽エスペラント協会、札幌エスペラント会所属。

児玉広夫(こだま・ひろお)

1926年、岩内町に生まれる。46年、由仁町でエス語を学ぶ。北海道連盟役員を歴任、第75回日本大会組織委員会事務局長。

カワハラ・カズヤ

1954年、札幌生まれ。74年、中労EグループのE入門講座受講、直ちに頓挫。85年、再学習、札幌エスペラント会入会。学童保育指導員。

渡辺晋道(わたなべ・しんどう)

29歳、僧侶。ほくはエスペランティストじゃないんです。ごめんなさいよ。isto anto ano ulo 学習:やる気が起きるようになんて、とんでもない。情報:くちコミ、電話、蚊帳の外。普及:ふきゅう ふきゅう ふきゅう。ほくはエスペランターノです。必要性、有効性、経済性、明示性。気に留めなさいよ。ハイ。

# SALATO

☆朝日新聞88年10月28日付、コラム“ことばと暮らす”で、リベラマイルドというタバコの「マイルドは英語だが、リベラは国際語エスペラントの“自由”ということばである」と、商品名の英語が陳腐化して、英語ばなれが始まっている一例を外山滋比古が。これは札幌の豊蔵正吾さんからの情報。

☆赤旗88年11月24日付、“これはおかしいぞくらしと天皇”（読者の投稿）で宇治の相川節子さんが書いている。「エスペラント語を日本にはじめて紹介した、二葉亭四迷を扱った」NHKのラジオドラマの放送を待っていたのに突然さしかえられた。ドラマに主人公が臨終する場面があり、発病した天皇に遠慮したのが理由だという。

☆こちらもNHK。12月9日21時45分から30分間、教育TVに実年 E-isto 藤本達生・ますみ夫妻が登場し、“ブルガリアで見つけた夫婦術”を披露した。翌日夕方、再放送。「エスペラントの世界」号外ハガキで予告され見た人も多いはずだから、視聴率は確実に上がった、と思う。

☆『苫小牧市公民館サークル連盟結成20周年記念誌』（88年12月発行）にエスペラント会の星田淳が「民族・ことば・国際化」と題して、ほんとうの「国際化」について。苫小牧では公民館に根づ

いてE会が活動している、見習う点が多い。

☆北海道教育大学紀要（第一部C）第39巻第1号（88年10月）に同学の三沢正博教授が論文「教育の国際化とエスペラント — 教育研究の対象としてのエスペラント運動 —」を発表。

☆赤旗88年12月25日付、学問・文化欄に大阪の難波正二さんの「天皇制に圧殺されたエスペラント運動 迫られる二つの道の選択」が。戦後、日本のE運動が平和への強い志向をもって再出発したこと、核兵器廃絶の国際署名が世界中の E-isto によって16万余も返ってきていること、しかし一方で「戦前の天皇制ファシズムがエスペラント運動のなかで十分総括されていなかったのではないかと思える状況があらわれてきた」として、E百周年記念出版物“Sepdek-sep ŝlosiloj por la japana civilizacio”に疑問を表明している。

\* \* \* \*

★“SALATO”には“Senorda konfuza miksaĵo el tre diversaj aĵoj”の意味がある。だから、切抜き紹介もあれば、短信もあり、編集後記でもある。ときには編集者の思いも“味つけ”される。

★年末年始、何かと不快なことが多かった。ワイロ漬けの政府・官界、消費税の強行採決、自粛と服喪の強要……。今はまず“一般市民”として、おかしいこと、いやなことには声をあげるべきときではないのか。もういっぺん「二つの道の選択」を迫られるのはごめんだ。 (KK)

## 会費の払い込みを

連盟の会費（年額2000円）の払込みはお済みですか。まだ今年度（88/9～89/8）分を納入されていない会員は至急払い込み下さい。機関誌購読だけ希望の方も同額で購読料と明記のこと。

振替 小樽 0-17075 北海道E連盟

## Heroldo de HEL

n-ro 28 (1989, januaro)

北海道エスペラント連盟機関誌 隔月刊

編集部： 004 札幌市白石区もみじ台東

1-1-6-304 カワハラ気付

事務局： 047 小樽市入船2丁目17-12

郵便振替口座： 小樽 0-17075